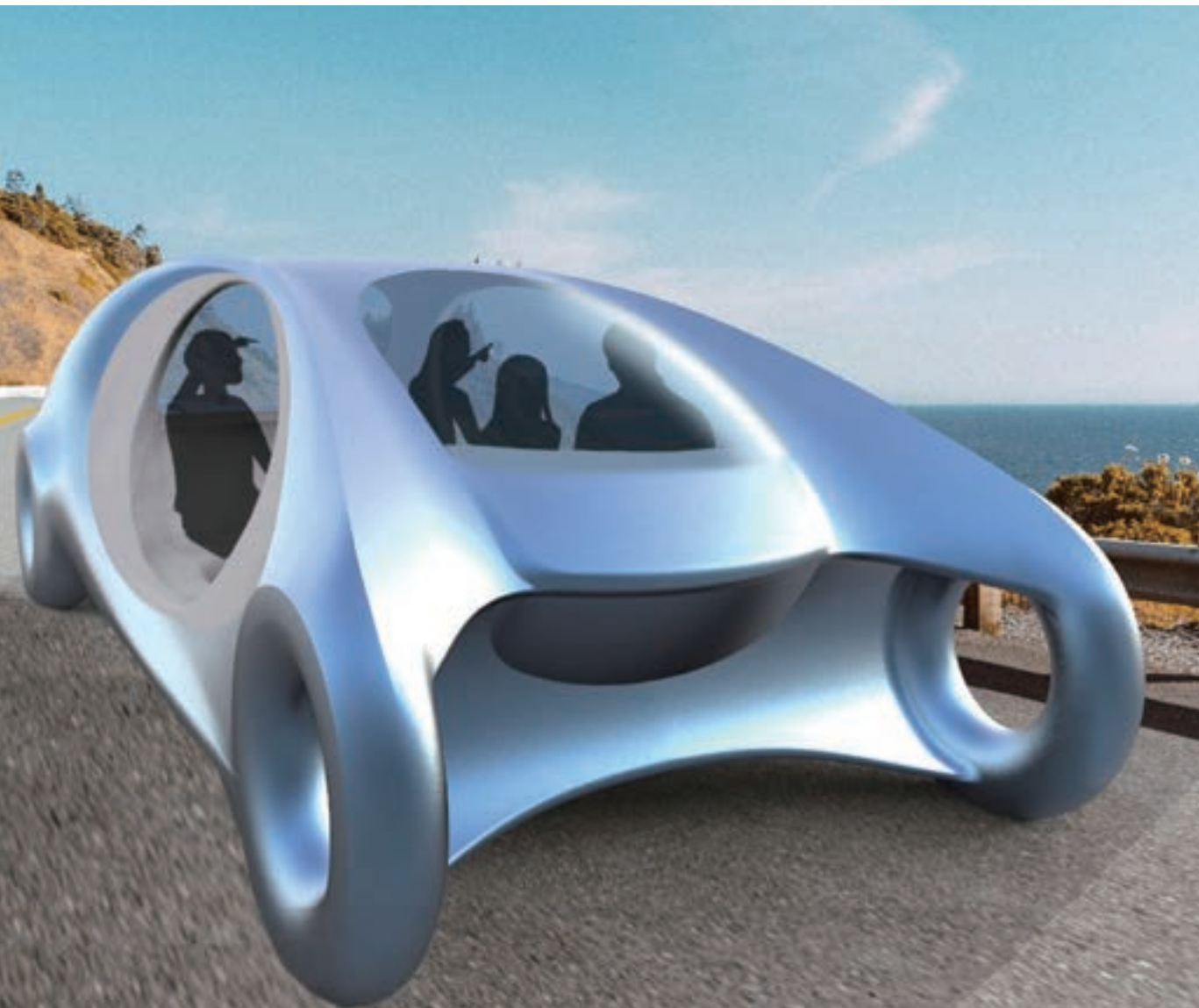


道すがらの移動体験を提供するモビリティ「Fuura」

Mobility Proposal For A More Enriching Local Travel Experience

金子 哲也

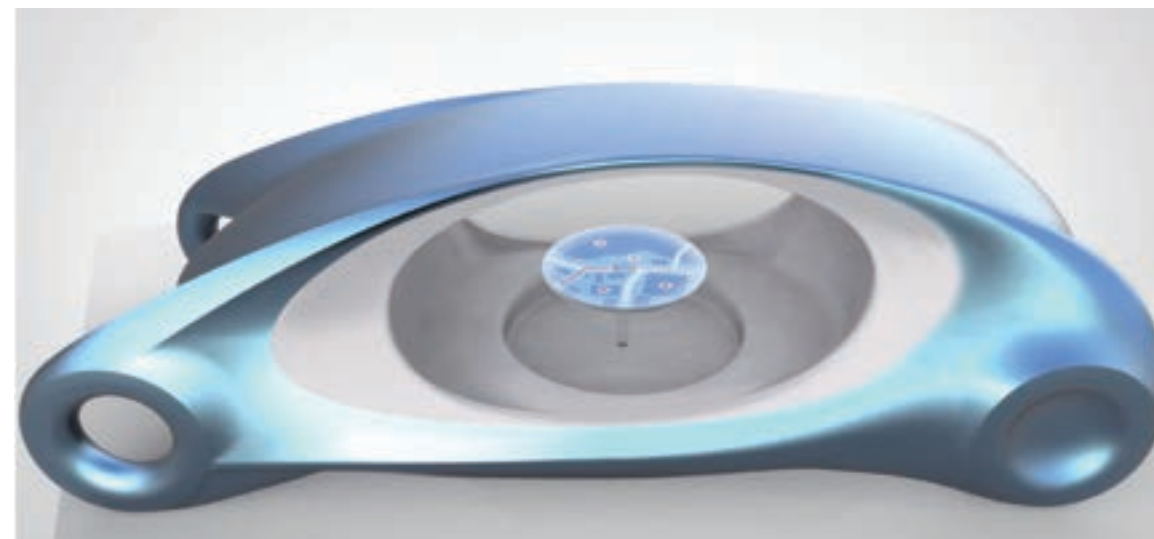


自動運転時代のドライブ体験

自動化が進んだ2040年。移動の形態は目的地を事前に設定し、移動中はプログラムに操作を委ねる「点と点を結ぶ移動」が主流になると考える。そういった時代の中で、移ろう景色や移動の途中に出会う思わぬ発見といった、道中を楽しむことを車ならではの移動体験として提供するモビリティ。

Driving Experience In The Age Of Automated Driving

Set in the year 2040 when self-driving cars have become the new normal. Furra is a new style of transport that emphasises the points between you and the destination - rather than simply the destination itself. In turn, bringing new meaning and enjoyment to an otherwise heavily purpose-focused user experience.



外観上は車内と車外を繋ぐ吹き抜けを設けたスタイリングが大きな特徴。

開放感を強めることで景色の移り変わりや風、音などから、その他の雰囲気を感じることができる。

また、道中立ち寄った店にドライブスルーでサービスを受けたり、ビュースポットに車を停めてくつろいだりといった使い方を想定した。外の環境との関わりを深めることによって移動中の楽しみを大きく広げる。

インテリアは中心部にタッチパネルやジェスチャーで操作する円形のコントロールユニットを配し、それをサークル状に囲む座席形状とした。

自動運転技術を「操作の必要のないもの」ではなく「高度な制御が働くことで、誰でも操作が可能なもの」として活用し、ドライバーの役割を固定せず、乗る人誰もが行きたい場所を定めて自由に移動できるドライブを可能にする。